

問合せ先 社会教育課 ☎072-433-7125

エッセイ部門

貝塚市の未来ある子どもたちが、絵画を通してこれからも心豊かに育つことを願っています。

はらだ
けいた様

ぼくは、今まさに反こう期に入つた所だ。小学四年生になり、学校生活になれてくると、授業に集中出来なかつたり、字も汚くなり、お母さんに注意され、さらにぼくのイライラした気持ちに火をつける。すなおになれず、自分がどうしたいかさえ、分からなくなつてしまふ。小学一年の妹の方が切り替え上手だ。

そういう時は、家の中にテントを建てて、一人で遊ぶ。ふわふわの小さい人形がぼくの遊び相手だ。でも、一人の時間が長くなるとさびしい気持ちになる。それを伝えるのは、今のぼくにはむずかしい。そんな時、お母さんがぼくに「どうしたの」と、話すきつかけを作ってくれる。どんな気持ちなのか、どうしたかったのか、ぼくの苦しかった気持ちを受け止めようとしてくれる事が、ぼくは、一番嬉(うれ)しい。

ぼくは、妹たちのお手本にならなくてはというプレッシャーもあり、きんちょうど真ん中に立たされている。でも、本当はお母さんと二人ですごしたい日もあるし、手をつないだり、甘えたい自分をもつと分かつてほしいとぼくは思う。そんな気持ちを、勇気出して家族に言えたとき、少しぼくは気持ちが悪くなる。そんなぼくの気持ちを家族は理解してくれる温かい存在だ。自分でも分からない気持ちはもつと家族には分からないのに、お母さんはぎゅつとだきしめてくれる。そんな家族に囲まれて、これからもぼくは反こう期をのりこえていきたい。

将来、ここに写っている家族が成長しても、きっと仲の良さがずっと続いていくのだろうと思わせてくれました。

またその他に、体験に裏付けられた沢山の素晴らしい作品や、記録として貴重な証言などもありました。普段は全然そんなことを書いたり言ったりしないのに、かいづか家族の日のエッセイコンクールというものがあるから一度書いてみようか、という、そんな作品が少なくなかったことを非常にうれしく思っています。